

第3回 シスメックス AP インターナショナル学術セミナー

シスメックス株式会社 学術本部

去る8月18～19日、シンガポールにおいて第3回シスメックス AP インターナショナル学術セミナー (The 3rd Sysmex Asia-Pacific International Scientific Seminar) が開催されました。

本学術セミナーは、臨床検査に関する最新のトピックスを提供するとともに、AP 地域各国において臨床検査に携わる医師や臨床検査技師が一堂に会し、AP 地域全体の臨床検査の質向上へ向けた意見交換やネットワーク構築を行うことを目的として、二年に一度開催しているものです。

今回は、「A New Phase & A New Face in Clinical Diagnosis」というテーマのもと、一日半に亘り、講演・ディスカッションが行われました。

赤道直下に位置し、18世紀に交易所としてイギリス人ラッフルズにより開かれたシンガポールは、東京23区とほぼ同じ面積ながら、「ガーデン・シティ」とも呼ばれる美しい国土を有し、民族的には中国系・インド系・マレー系などを中心とした多民族国家です。また、そこには、「ユニバーサル・スタジオ・シンガポール」や世界最大の観覧車「シンガポール・フライヤー」、屋上にプールを備えた巨大カジノリゾート「マリーナベイ・サンズ」などの最先端の施設が次々と建設されています。このようにアジアにおいて、最も活気に満ち、国際色豊かな国の一つであるシンガポールは、AP 全域の臨床検査関係者が一堂に会するには、まさに最適なロケーションといえます。本セミナーには、15カ国から約300名の方々にご参加いただき、セミナー自体も非常に国際色豊かなものとなりました。

一日目には、アジア各国からお招きした講師陣による6題の講演がありました。血液分野では東海大学教授の宮地勇人先生とニュージーランドの Ms. Susan Corboy に講師をお務めいただきました。宮地先生からは、血液学的検査データに専門家の知識

を統合して診断を行っていくことにより、その価値は大きく高まるというお話を、Ms. Susan Corboy には、末梢血幹細胞採取時期の指標として、HPC を迅速、簡便、かつ安価なパラメータとして活用する可能性についてお話いただきました。凝固分野では、Dダイマーの診断・治療への活用について、シンガポールの A/Prof. Tien Sim Leng に講演いただきました。同じくシンガポールの A/Prof. Catherine Tay には、医療における倫理的、法律的問題について、インシデント報告書の書き方なども含め、具体例を挙げて分かりやすく講演いただきました。尿分野には、タイと日本から二人の講師をお招きしました。Dr. Mongkol Kunakorn には、UTI のスクリーニングにフローサイトメトリー法を用いることの有用性について、株式会社キューリン検査部長の村谷哲郎先生には、UF-1000i の細菌チャンネルのスキヤッタグラムによる起因菌がグラム陰性か陽性かの推定についてお話いただきました。いずれの講演も、参加者には大変好評で、活発な質疑応答も行われました。

二日目は、血液・尿・凝固それぞれの分野に分かれ、エキスパートセッションとして、より実践的なスタ

イルでのディスカッションが行われました。

また、本セミナーに合わせて、シスメックスの新製品発売記念イベントも行いました。セミナーに先立ち、多項目自動血球分析装置 XN シリーズおよび全自動尿統合分析装置 UX-2000 の披露が行われ、新製品の特徴を紹介した後、XN シリーズに新規搭載されている PLT-F の有用性が講演で紹介されました。展示会場では、参加者から多くの質問が寄せられ、新製品への期待の高さがうかがえました。

おわりに

本セミナーの参加者からは、実務に役立つ貴重な情報を得られる有用なセミナーであったとの感想を頂戴しました。

AP 地域には、インドをはじめベトナムやインドネシアといったエマージング・カントリーがあります。これらの国々では、経済発展に併せ、医療環境の整備も着々と進められつつあります。今後も、このようなセミナーを通して、これら国々の検査技術の向上、標準化に貢献できるよう、取り組んでいきたいと思えます。



セミナー会場の様子



歓迎レセプション



講師の先生方とセミナー参加者



セミナー講師へのギフト贈呈